



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

# Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 028 May 16, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

**FAX番号 03-5542-2912**

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。  
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。  
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

USMEF(米国食肉輸出連合会)では、BSEやTrader's Be&Poに関するアンケートを実施しております。下記URLからご参加ください。  
<http://www.americanmeat.jp/cgi-bin/questionnaire/index.cgi>

## BSE関連ニュース

### ●USDA、BSE専門家を日本に派遣

米国のシーファー新駐日大使は、着任後初の記者会見で、米政府の専門家チームを日本に派遣するとし、早期再開を促す方針を示した。米国農務省(USDA)ランバート次官補が率いるチームが4月25~27日にかけて来日し、日本側の実務担当者(外務省、厚生労働省、農林水産省)と会議を行った。同チームは同様の目的で韓国も訪れている。来月には日韓両政府が専門家を米国に派遣し、大手食肉処理工場を視察して飼料管理や処理工程の安全性を検証する予定という。

※2005年4月19日 meatingpalce.com

### ●USDA、歩行困難牛の加工禁止を一部緩和か

今後パブコメや議会での承認が必要であるが、米国農務省(USDA)は、2004年1月下旬に発効した、全ての歩行困難牛の食品加工禁止措置の緩和を検討している。ジョハンス農務長官は「体重1,110ポンドの肉牛は食品なら1,000ドルになるが、ペットフードに回されると\$200ドルにしかならず、業界では収益で5,000万ドルの損失が出ていると言われる。30ヵ月齢以下で輸送途中に脚を骨折した牛ならBSEのリスクはない。今年後半にBSE監視強化プログラムのテストが終了した時点で、禁止緩和があるかもしれない」と述べている。しかし歩行困難の原因診断の難しさ、食品安全、動物福祉の観点から、消費者団体、動物保護団体、医療関係者から反対意見が出ている。禁止発効前は、処理・加工場に到着時点で年間19万5,000頭が歩行困難牛と判断されていた。

※2005年4月25日 Cattle Buyers Weekly

### ●米国のクロイツフェルトヤコブ病、感染源は別々

1995年から2004年の間に、クロイツフェルトヤコブ病(以下CJD)が原因で死亡したとされる17名について、全員がニュージャージー州にある競馬場に勤務したり頻りに訪れていたことから、1988年から1992年の間、競馬のレストランで出された肉がBSE感染牛のもので、それが原因ではないかと疑われていた。全米プリオン疾病病理監視センターと疾病管理センターが、17名について医療記録や脳組織を調べた結果、世界保健機構の基準に従い11名が典型的CJDもしくはCJDの疑いありと判定され、残り6名のうち3名の死因はCJD・変異性CJDとは無関係で、もう3名の死因は引き続き調査となった。5人は脳細胞標本でCJDが確認されたが、CJDの亜類型は各々類似性はなく、また変異性CJDの特徴も見られなかった。

※NMWR 2004年5月14日号



**BSE関連ニュース**

- USMEF (米国食肉輸出連合会) ホームページから最新のBSE関連資料がダウンロードできます。  
 「米国が実施した牛海綿状脳症 (BSE) のリスク緩和政策」  
 「米国の一般的な肉牛生産システム (図)」  
 「米国の牛肉生産システム」  
[http://www.americanmeat.jp/bse\\_material/index.html](http://www.americanmeat.jp/bse_material/index.html)

**米国食肉市場ニュース**

～ 牛肉 ～

牛肉市況 (4月18日～22日)

- 週間と畜頭数：60.0万頭(前年比6.0%減)。
- 肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり):  
 主要5市場では平均93.92ドル(前週比2.07ドル高)。  
 枝肉価格は平均149.50ドル(同4.65ドル高)。
- 牛肉価格：歩留まり等級3(YG3)のチョイスは158.57ドル(前週比3.45ドル高)。YG2～3のセレクトは142.45ドル(同3.56ドル高)。

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	4月18日～4月22日
450～500 (子牛)	135.00～150.00
500～600 (子牛)	121.00～134.00
500～600 (若齢牛)	125.00～140.00
600～700 (若齢牛)	117.00～131.50
700～800	107.25～121.75
800～1000	93.00～121.00

※2005年4月22日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

主要12州<sup>1)</sup>のフィードロット内頭数<sup>2)</sup>、前年比1.0%増  
 (2005年4月1日現在)

	2005年 <sup>3)</sup>	対前年
3月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4)</sup>	11,152	102.0%
4月導入頭数	1,760	97.0%
4月出荷頭数	1,973	100.0%
4月のその他の消失 <sup>5)</sup>	69	103.0%
4月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4)</sup>	10,870	101.0%

注: 1. アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン  
 2. 収容頭数1,000頭以上。  
 3. 単位: 1,000頭。  
 4. 穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。  
 5. 死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。  
 ※2005年3月18日 Cattle On Feed (米国農務省)

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (4月18日～22日)

- 週間と畜頭数：197.0万頭(前年比1.3%増)
- 肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は前週と大きく変わらず。

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

	4月22日
ペオリア	47.00
セントポール	49.50
スーフォールズ	50.00
ミズーリ東部	47.50

185ポンド物 (約83.5kg) の枝肉平均価格 (US\$)

	4月22日
東部トウモロコシ地帯	67.04
西部トウモロコシ地帯	70.13
アイオワ・ミネソタ	70.55
全 国	68.82

※2005年4月22日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

**市況ニュース**

●生体牛・牛肉市場、春先の需要上向く

春を迎えバーベキュー等、牛肉消費の機会が増えはじめたことで需要が高まり、生体牛価格、牛肉の卸売り価格が上昇し、ボックスビーフ価格も数ドル値上がりしている。サザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)では生体牛の現金取引価格が100ポンド当たり94ドル(前週比2ドル高)、オクラホマでは牛肉価格が平均150ドル(同1～2ドル高)になっている。今後と畜頭数が増えたとしても、牛肉の卸売り価格が更に上昇または維持できるかは、4月最終の週末の小売り販売高を見ないとわからない。そのため年間で需要が最も伸びる時期を控えて市場は上向いてはいるが、パッカーは生産量を抑えている。例年ボックスビーフ価格は、5月中旬まで高値で推移する。

※2005年4月25日 Cattle Buyers Weekly



業界ニュース

●米国生産者、カナダ産生体牛輸入再開を支持

4月21日、牛肉・豚肉生産者の連合が、「確固たる科学的根拠によりカナダ牛の輸入再開を支持する」という、法定助言者訴訟事件摘要書(amicus brief)を上訴裁判所に提出した。同裁判所は現在、今年3月に米国政府が予定していた輸入再開を差し止めたモンタナ州連邦地裁の仮処分に対する、全米食肉協会(NMA)と米国農務省からの控訴を審議中。そのため同日、米国食肉協会(AMI)とその他6つの食肉業界団体に加え、牛肉加工業最大手のタイソン社も米国農務省の控訴を支持した摘要書を提出した。

※2005年4月25日 Cattle Buyers Weekly

●USDA、フードピラミッドを改定

4月19日、米国農務省(USDA)はブッシュ大統領が推進する「ヘルシーアメリカ」プロジェクトの一環として、「健康づくりのステップ - マイピラミッド」(改定版)を発表した。従来の標準的なガイドではなく、各個人に必要な栄養、運動量に合わせてカスタマイズできるのが特徴。ビジュアル要素を盛り込んだ「マイピラミッド」では、年齢、性別、活動レベルを入力してプランを作成したり、現在のカロリー摂取・運動量評価が簡単にできる。2才以上の国民の多様なニーズに対応した12種類のピラミッドが紹介されている。詳しくはUSDAウェブサイト MyPyramid.gov を参照。

※2005年4月20日 meatingpalce.com

●肉牛DNA検査で肉質を判定

4月18日付けのワシントンポストは、バイオテック社が肉汁の多いステーキ向きの肉牛を探知するDNA検査を開発したと報じた。カーギル社は、カンサスやテキサスのフィードロットで採取した肉牛の血液を、カリフォルニアにあるタモロフィックス社の研究室に送り遺伝子型判定器にかけて、やわらかで霜降りが多い牛肉になる遺伝子特性があるか分析する。ジューシーなステーキ向きのDNAを持つ肉牛は、と畜までの期間が長く良質の飼料を与えられるが、一般の肉牛は牧草と干し草で飼育され、ハンバーガー肉になる。米国農務省では「こうしたテクノロジーは今後20年、長期的に畜産業界に大きな影響を与えるであろう」と述べている。

※2005年4月22日 MyCattle.com

**Impressions**

— 第2回 —

**魅力のある売場**

最近、スーパーの肉売場で買いたいものがない、あるいは顧客が買おうかなと思う売場になっていないような気がする。特に牛肉の売場には魅力がない。要は売場が活性化していないのである。何故だろう？ まずは値頃感のある商品が少ない。やはり物には値頃感があり、牛肉だったらこれくらい、豚肉だったらこれくらい、あるいは家族4人だからこれくらいの量でいくらと云った基準が必ずあると思う。ところが昨年末から、この値頃感が崩れてしまっているようだ。肉は生鮮商品なので当然相場の変動があるが、野菜と違い、肉は常に値頃感を安定的に顧客に出すことで、買いやすい商品として市場を伸ばしてきた。特に牛肉売場ではスーパーがロスを恐れ、思い切ったボリューム感のある売場、買いたくなる魅力のある売場を作れなくなっている。魅力のない売場がまたロスを大きくし、悪循環となっている。もうひとつは「楽しい・おいしい」マーチャンダイジングがないことである。やはり食べ物は食べる楽しさ、美味しさが非常に重要な要素だと思う。しかし今の売場には、安全性の訴求しかないような。もちろん安全性は非常に重要なことだが、どうも値頃感、楽しさのある売場を作ることから引いてしまっているような気がする。食肉から顧客が逃げていかないように、早く魅力のある売場にしなければ…。(カクドー)

This project funded by US producers.